

した。従来の白色LEDは長年にわたり利用されてきたが、蛍光体として黄色蛍光体を使用していたこともあり、その白色光は自然光に対してやや赤み成分が不足した白色だった。CASNまたはSCASN蛍光体(別名・1113蛍光体)と呼ばれる窒化物系の赤色蛍光体は、これを白色LEDに使用することで、従来得られなかった赤み成分が得られるため、自然光に近い白色を実現することができるとなり、照明やLCD用バックライトなど様々な用途に使用されている。三菱化学と日亜化学は、同赤色蛍光体に関し、それぞれが保有する特許を相互に実施許諾することについて〇一〇年に基本合意し、その後詳細条件についてNIMSも交えて協議を継続してきたが、今回すべての内容について最終的な合意に至った。同契約で相互実施許諾の対象となる特許には、日亜化学保有の特許および三菱化学、NIMS保有の特許を含む。また、これらの特許のうち、三菱化学とNIMSが共有する基本特許の一つである米国特許(米国特許第8409470号)については、三菱化学、日亜化学、NIMSおよびシチズン電子の四者による共有とすることに合意した。

☆化成協、志手会長『中国経済の停滞による波及を注視』

化成成品工業協会は七日、都内で新年賀詞交歓会を開催し、関係者約二百七十名が出席した。志手啓二会長(三井化学執行役員)は冒頭の挨拶で『昨年の日本経済は概ね順調に推移し、世界的に見ると米国経済は非常に好調だった。一方、中国の経済成長は七%を達成

したが、投資対象が内陸部に移ったこともあり、沿岸部で事業を展開している我々の実感値としては四〇五%の成長にとどまっているように感じている。こうした中国経済の停滞は、今年最大の経済的リスクになることも想定されるため、その動向を的確に見極めていくことが重要だ』と語った。化学産業の現状については『円安や原油安の傾向が見られていることは、中長期的に良い方向に進むことが期待されるが、原油価格については下落のスピードが非常に急激なため、短期的には在庫評価損や買い控えなどの問題が生じている。ただ、原油価格もバレル四十〇四十三ドル程度で底打ちするとの見方も強く、これまでの急激な価格変動が徐々に落ち着いていくことを期待している』と語った。また、同協会では、国内外の法規制情報の発信、人材育成、保安・安全対策、イノベーションの創出などを重点施策に掲げ、各分野での取り組みを一段と強化しており、『会員各社にとって役立つ協会を目指し、今年もこれらの取り組みをさらに充実させていきたい』との抱負を示した。

☆V E C、宇田川会長『公共工事の着工や景況好転に期待』

塩ビ工業・環境協会(V E C)は七日、都内で新年賀詞交歓会を開催し、関係者約二百八十名が出席した。宇田川憲一会長(東ソー社長)は冒頭の挨拶で『昨年は消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が長引き、夏以降に回復基調となったものの足取りは鈍い状況が